

令和2年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月17日実施)	総合評価(3月25日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	○「自立と社会参加」をめざし、子どもたちが主体的意欲的になる授業を実践する ○授業改善を組織的に行い、専門性の向上を図る	①指導の系統性の視点をもって「学習指導内容表」の作成と見直しを行い、子どもたちの主体性や意欲を引き出す授業づくりを行う ②組織的な授業改善に向け、授業公開・授業検討会・学習会等とおして、専門性の維持向上を図る	①「自立と社会参加」をめざす学習内容表」と関連付けながら、学習指導要領に基づいた教科の学習内容表の作成・検証を実施する ②教員間での授業参観や授業検討会の工夫、学習会の実施等、授業について教員が学ぶ機会を設定する	①指導の系統性の視点をもった「学習指導内容表」の整理と教育活動による検証を行うことができたか ②授業公開や参観、学習会等の促進、授業検討会の工夫により、チームによる授業改善が進められたか	①これまで作成してきた学習指導内容表については、日々の授業実践をとおして検証し整理した ②年次研修者の研究授業を25件、授業検討回と学期に1回ずつ計3回、授業公開は90件実施し、授業改善を行った	①未整理の教科等については、来年度も継続して検討を進める必要がある ②授業を実践するチームやグループの教員間で連携した授業改善のためにはまだ課題がある ③教員間で連携できるよう、事前に授業前チェックシートを配付するとよい	[学校運営協議会] ・チェックシート活用の評価を取り入れた改善が望まれる [保護者] ・今年度はコロナ禍で授業参観が難しかったため、次年度は参観日を設定してほしい [教員] ・授業案のデータベース化ができると、教育力継承につながると考える	○授業実践や研究等とおして学習指導内容表を作成・検証を行ってきた ○いくつかの教科の学習指導内容表については、未整理のものがある ○今年度はコロナ禍により、思うような授業展開の難しさもあったが、新しい生活様式を取り入れた教育活動の検討・実践に取り組んだ ○授業公開や研究授業については、今後も意欲的に取り組んでいきたい	○研究計画の見直しを図り、次年度についても学習指導内容表の研究を継続し、検証・整理を実施する ○新しい生活様式による学校生活での授業実践を重ね、今後はさらなるブラッシュアップを図りたい ○年次研の研究授業だけでなく、全員1回の授業公開を実施し、より多くの助言を受けながら授業改善していく
2 幼児・児童・ 生徒指導・支援	○ICTによる教育活動など、一人ひとりのニーズに応じた教育を実践する ○アセスメントを充実させ、専門性の高い支援を実現する	①ICTを利活用した学習活動やオンライン授業により、個々の教育的ニーズに応じた教育を実践し、学習支援の充実を図る ②新たなアセスメントツールの活用を促進し、子どもの特性を客観的に評価し、個別教育計画や教育活動につなげる	①ICTを利活用した授業実践やオンライン授業の共有を図り、個々の実態に応じた教育や支援を充実させる ②各学部部門において適切にアセスメントツールを活用し、的確な実態把握を基にした個別教育計画を作成し、教育活動を実践する	①個々の教育的ニーズに応じた教育活動の展開に、ICTやオンライン等を活用し、各家庭のICT環境調査を進められたか ②的確な実態把握により、目標設定や支援の手立て等を、個別教育計画や子どもの教育活動につなげることができたか	①子どもの実態や教育的ニーズに応じて、オンライン授業を実践し、学習保障につなげた ②太田ステージ評価に基づく授業実践ができるようになってきた ③CLISP-ddのアセスメントについては次年度に向けた個別教育計画に反映させていく	①今後もオンライン授業の充実を図るとともに、ICTの環境調査結果に基づき、ルーターを貸し出す等、各家庭のICT環境の整備が必要である ②子どもの全体像を担任間で共有しきれていない状況があるため、子どもの実態をICFの視点から整理し、指導課題を共有して指導にあたるのが大切である	[学校運営協議会] ・オンライン授業の子ども意見や評価を受けるとよい ・今後もアセスメント結果を教育活動に生かす工夫に期待する [保護者] ・担任が子どもたちのことを考えて取り組んでもらっていることに感謝している ・タブレット端末をさらに活用した授業を実践してほしい	○オンライン授業の実践については、コロナ禍が推進を図ることにつながったが、今後は、個々の教育的ニーズに基づき、学習保障の観点も入れながら進めていくことが必要である ○各種アセスメントの結果を個別教育計画や授業実践につなげることは、達成した部分と未達成の部分とを整理する ○CLISP-ddのアセスメントについては今年度末の評価を次年度に向けた個別教育計画に反映させた	○オンライン授業の充実と、今後、個々のニーズに応じた学習保障を推進するために、家庭でのICT環境整備に取り組むため、貸出ルール等を整える ○アセスメント結果の教育活動への反映については、教員間で情報共有できるように、日々の実践や研究をとおして達成させていきたい
3 進路指導・支援	○子どもたち一人ひとりの生活の充実をめざし、発達段階に応じた進路指導・支援を行う ○将来を見据えた地域生活充実のため、障害者スポーツを促進する	①子どもたちの将来の生活を見据えた、進路指導・支援を推進する ②障害者スポーツを地域に発信するとともに、子どもたちの余暇活動の体験機会を充実させる	①個別の支援計画策定会議や事業所見学等とおして、子どもたちの将来像をイメージし、将来を見据えた進路指導・支援を展開する ②生涯スポーツにつながるような「パラスポーツ教室」等を開催する	①子どもの将来像をイメージしながら策定会議や見学会を展開したり参加したりすることができたか ②楽しく参加できる「パラスポーツ教室」等を開催したり、地域と協働する機会を設定したりできたか	①コロナ禍により、個別の支援計画策定会議は規模を縮小して開催したが、保護者相談に応じたり進路の方向性について共有したりできた ②オンラインボッチャ大会に参加しコロナ禍でのパラスポーツを体験したりした	①今後も状況を鑑みつつ、会議の規模や実施時期等を検討し、また、オンラインによる見学会や勉強会等の工夫をしたい ②フロアホッケー等、動きや対面のあるパラスポーツの実施について、検討していきたい ③プロジェクトチームと連携する	[学校運営協議会] ・個別の支援計画策定会議はとても有効と捉える ・パラスポーツの地域への発信の具体的な方法を検討してほしい ・将来を見据えた生涯スポーツの取組みをお願いしたい ・コロナ対策を講じながらパラスポーツを推進してほしい	○個別の支援計画策定会議については、コロナ禍により、規模縮小を講じて実施した ○今年度は、生徒がオンラインでのボッチャ大会に参加したり、教員向けのボッチャ教室を実施したりした ○コロナ禍により、パラスポーツ教室を開催することができなかった	○個別の支援計画策定会議については、今後の情勢を鑑みながら、実施時期や規模等の検討を重ねたい ○新しい生活様式におけるパラスポーツ大会やパラスポーツ教室を開催できるように、感染症対策を講じていく
4 地域等との協働	○地域社会と連携しながら、社会性を育む	①地域での教育活動や交流及び共同学習を推進	①コミュニティスクールでの意見交換をいか	①今年度はコロナ禍により、学校運営協議会を集合で	①協議会の持ち方やオンラインでの実施について検討	[学校運営協議会] ・地域との連携を引き続き行ってほしい	○今年度はコミュニティスクールを対面で実施することができなかった	○コミュニティスクールの開催については、実施時期・時間の設定、実施方法の検討等、進め	

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月17日実施)	総合評価(3月25日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
	○相模原地区におけるインクルーシブ教育を推進する	し、地域と協働しながら幼児児童生徒の社会性の育成をめざす ②地域の関係機関との連携を図り、巡回相談やネットワーク会議等への参加をとおして、センター的機能の充実を図る	し、地域での教育活動等とおして、子どもたちがコミュニケーション能力や社会性を伸ばすことにつなげる ②地域の各種学校等と連携し、巡回相談や協議会・研究会に参加することでセンター的機能を発揮する	が社会性を育むことができるよう、地域と協働した教育活動を展開することができたか ②各種事業をとおして、ニーズに応じたセンター的機能を発揮することができたか	実践することができなかった ②地域の各種学校等への巡回相談や協議会・研究会等への参加により、地域や学校等の課題や対応について共有したり検討したりすることができた	を重ねていくことが必要と考える ②感染予防対策を講じながら、各学校における支援体制の構築を踏まえた学校コンサルテーションを推進することにより、ニーズに応じたセンター的機能の発揮につながると考える	・地域にある社会資源を継続的に発掘や整理をして基盤を強化するとよい ・巡回相談については、様々な情報や具体的なアドバイスを現場では必要としているため、感染予防等に配慮する中での巡回相談実施は、相手先にとってははとてもありがたいことだと思う	○巡回相談等の各種事業をとおして、センター的機能の発揮につながった ○各種事業を円滑に進めるために感染予防対策を講じることができた ○新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、地域の方に来校していただく機会の設定が、今年度は難しかった	ていきたい ○今後も、感染予防対策を講じながら、各種事業の実績を積み重ね、センター的機能の発揮につないでいく ○学校で実践している教育活動を、どのように地域に発信していけばよいかの検討を進める	
5	学校管理 学校運営	○信頼と期待に応える学校づくりを推進する ○安心で安全な教育環境の整備に取り組む ○現実的な防災体制を整備する ○不祥事防止の徹底を図る ○教職員の働き方改革を推進する	①学校が直面する課題について、5つのプロジェクトチームを中心に、組織的に課題解決を図る ②会議の持ち方や業務の進め方の改善をとおして、教職員の働き方改革を推進する	①課題解決に向け各プロジェクトチーム(①10周年、②障害者スポーツ、③図書室活用、④EyeTracker、⑤カフェ)を展開する ②全教職員が働き方改革の意識をもって各業務にあたることができるよう、会議の持ち方や進め方、情報共有等の工夫を図る	①各プロジェクトチームの活動により、組織的に課題解決を進めることができたか ②会議の持ち方や進め方、情報共有の工夫を図り、働き方改革を推進することで、18時以降の時間外勤務率を下半期で50%減らすことができたか	①5つのプロジェクトチームの活動は、コロナ禍により縮小した部分があり、また、コミュニティスクールにつなぐことも難しく、多くの助言をいただきながら進めることができなかった ②会議の集合人数を絞ったり、Teamsを活用したり、会議時間の短縮を図ったり等、会議の持ち方や進め方が大きく変わった ②残業率については前期と後期で比して約5%減に留まったため、今後も率を減らしていきたい	①今年度立ち上げた5つのプロジェクトチームは次年度も継続して活動し、新しい生活様式においてもできることを提示していくことが、学校における課題解決につながると捉える ②会議の持ち方については、働き方改革の視点を持って、今後も改善していく必要がある ②出勤時間の明示、全体打合せでのアナウンス、残業者への言葉かけ等を行ったが、業務削減等を進めることが必要と考える	[学校運営協議会] ・各プロジェクトの取組みの成果は、今後発揮されてくると期待している ・プロジェクトの活動はコロナ禍により計画等の修正も必要と思われるため、柔軟に対応していけるとよいと考える [保護者] ・今年度はコロナ禍で学校の中に入ることが難しかったため、来年度は対策を講じて見学できる学校になってほしい [教員] ・働き方改革のためには業務削減が必要と考える	○各プロジェクトチームの活動については、コロナ禍により計画の見直し等を要した ○図書室活用とカフェについては、実現に向けた環境整備を行い、図書室に流し台を設置した ○働き方改革として、会議の持ち方や進め方等の改革を図ることができた会議があった ○時間外勤務については、時期的な課題や、業務の偏り・業務の進め方等の課題が散見された	○次年度も5つのプロジェクトチーム(①10周年、②パラスポーツ推進、③図書室活用、④アイ・アイ(AI/EyeTracker)、⑤カフェ)の活動をとおして、課題解決を図っていく ○コロナ禍で進めにくかったチームについても、次年度は「どうすればできるか」「なにができるか」の視点で推進していく ○時間外勤務については、産業医との連携を図ることも必要と考える